



令和4年1月31日  
新宿区立西戸山幼稚園  
園長 佐藤 淳穂

### お化け屋敷をつくりたい

園長 佐藤 淳穂

オミクロン株が猛威を振るい、より一層の感染対策が求められています。新宿区からの登園自粛のお願いに対し、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。子どもたちへの感染拡大防止のため、本園では先月末より午前保育を実施することとしました。各ご家庭の事情に合わせて預かり保育は行っております。できる対策を講じながら、保護者の皆様とともに、この難局を乗り切っていきたいと思えます。

遊戯室で年長組の数人が集まっています。「お化け屋敷をしよう」と決めたようで、大型積み木やカラーボックスが運び込まれ、場を構成していました。節分に向けて作った鬼の面を付けている子もいて、それだけでちょっと怖い雰囲気が出て、「早く誰かを脅かしたい」というワクワク感がありました。

しかし、「お化け屋敷」をつくるのはそう簡単なことではありませんでした。どのように場を組み立てたらいいのか、誰がお化けになるのか、一人一人の考えは皆、当然違っているからです。

Aさん 「ここに入ると密になっちゃうよね。」

Bさん 「私たちはお客さんのためにやるんだよ。だから先に練習しようよ。」

Cさん 「そもそも、私たちはお化け屋敷の人になるんだから。」

Dさん 「傘お化けってどういうのかな。段ボールで作れるかな。」

思いついたことを話しながら、そして互いに聴き合いながら、場や流れや自分たちの役や動きをつかっていくのです。やってみて確認し合って、時には考えを引っ込めて、アイデアをひねり…そのプロセスの中では、思いを受け止めてもらえずにがっかりしたり、相手の考えをつかもうと悩んだりする場面も出てきます。途中で、私が「(積み木を)広げて並べてみたら？」と声をかけると、「私たちには私たちのイメージがあるの。」と言われてしまい、私も提案を早々に引っ込めました。



友達と思いを寄せ合いながらつくっていく遊びは、まさに協同的な活動です。いろいろな人がいる、いろいろな考え方がある、ということを知り、それを受け止めてさらに価値あるものをつくっていけたら、人生はより豊かなものになるに違いありません。この学びは、これからの新しい社会で必要な資質となり、協同性を身に付けた子どもたちは多様性の時代をつくる担い手となっていくでしょう。

しばらくして様子を見に行くと、先ほどの場は片付けられ、奥の隅に鬼の隠れ家らしきものがありました。がらんとした遊戯室全体がお化け屋敷となって、一角からお化けが出てくるということでしょうか。私には思いもつかなかった魅力的なお化け屋敷になりそうです。